

9 対応性・更新性			3.7	0.29	-	-	3.7	
3.1 空間のゆとり			4.0	0.31	-	-		
1 階高のゆとり		標準階高3.7m。	4.0	0.60	3.0	-		4.0
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.141。	4.0	0.40	3.0	-		4.0
3.2 居室のゆとり			5.0	0.31	-	-		4.0
3.3 設備の更新性			4.2	0.38	-	-		3.0
1 空調配管の更新性			3.0	0.17	-	-		4.0
2 給排水管の更新性		余部のある堅固管ジャックにより構造部材を傷めることなく改修可	4.0	0.17	-	-		4.0
3 電気配線の更新性		配線部材、仕上げ材がいためることなく、電気配線の更新可能。	5.0	0.11	-	-		5.0
4 通信配線の更新性		構造部材、仕上げ材がいためることなく、通信配線の更新可能。	5.0	0.11	-	-		5.0
5 設備機器の更新性		中間層や屋上層に屋外機のみツツアツパースを確保	5.0	0.22	-	-		5.0
6 バックアップスペース		主要機器搬出入用マンシハッチの確保	4.0	0.22	-	-		4.0
G-3 置外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.4	
1 生物環境の保全と創出		敷地周辺の立地特性等の把握、屋上緑化、緑地の維持管理設備	3.0	0.30	-	-	3.0	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		遠景からの良好な景観形成、周辺とバランス良く調和。	5.0	0.40	-	-	5.0	5.0
3 緑地系・グリーン化への配慮			5.0	0.30	-	-	5.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		住民活動スペースの設置、防犯性への配慮。	5.0	0.50	-	-	5.0	5.0
3.2 敷地内温熱環境の向上		敷地内に緑地を確保、屋上での緑化、常風向に配慮した配管計	5.0	0.60	-	-	5.0	5.0
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0	
LR-1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.5	
1 建築物のエネルギー削減		PAL値/基準PAL値=222/300=0.74。	5.0	0.30	-	-	5.0	5.0
2 自然エネルギー利用			5.0	0.20	-	-	5.0	
2.1 自然エネルギーの直接利用		自然換気、クールテュープの採用。	5.0	0.50	-	-	5.0	5.0
2.2 自然エネルギーの変換利用		太陽光発電の採用、地中熱(井水の恒温性)を冷暖房補助として利	5.0	0.60	-	-	5.0	5.0
3 設備システムの高度化		変流量方式、変流量方式、谷電制御、高所換気での短縮化を家	4.0	0.30	-	-	4.0	4.0
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0	
4.1 エネコング		照明・コンセントと主要熱源電力、熱源ガス消費量などを計量。	4.0	0.50	-	-	4.0	4.0
4.2 運用管理体制		運用、維持、保全の基本方針の提案。	4.0	0.50	-	-	4.0	4.0
LR-2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.0	
1 水資源確保			4.0	0.15	-	-	4.0	
1.1 節水		節水コマ、省水量機器の設置。	4.0	0.40	-	-	4.0	4.0
1.2 雨水利用・雑排水再利用			4.0	0.60	-	-	4.0	
1 雨水利用システム		雨水貯留タンクを設置。	4.0	0.67	-	-	4.0	4.0
2 雑排水利用システム		空調ドレン排水を再利用、非水を雑用次に利用。	4.0	0.33	-	-	4.0	4.0
2 資源確保			4.0	0.85	-	-	4.0	
2.1 資源の再利用効率			3.5	0.35	-	-	5.0	1.0
2.1.1 躯体材料の再利用効率		高炉セメント、再生骨材の使用。	5.0	0.67	-	-	5.0	5.0
2.1.2 非構造物材料の再利用効率		非構造物材料の再利用効率	1.0	0.33	-	-	5.0	5.0
2.2 持続可能な森林から産出された木材		産産間伐材を使用。	5.0	0.04	-	-	3.0	3.0
2.3 有害物質を含まない材料		全業別にF☆☆☆☆以上を採用。	5.0	0.08	-	-	5.0	5.0
2.4 長寿命建築物などの再利用			3.0	0.18	-	-	5.0	5.0
2.5 部材の再利用可能性		躯体と仕上げが容易に分離可能	5.0	0.18	-	-	5.0	5.0
2.6 フロンハロンの回避			4.5	0.18	-	-	5.0	5.0
1 消火剤			5.0	0.50	-	-	5.0	5.0
2 断熱材		ODP=0かつGWPが低い発泡剤を用いた断熱材料を使用。	5.0	0.50	-	-	4.0	4.0
3 冷媒		主要熱源のガス熱源で自然冷媒である水を冷媒に使用。	4.0	0.50	-	-	4.0	4.0
LR-3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3	
1 大気汚染防止			3.0	0.15	-	-	3.0	3.0
2 騒音・振動・騒音の防止			3.0	0.15	-	-	3.0	
2.1 騒音			3.0	1.00	-	-	3.0	0.0
2.2 振動			-	-	-	-	0.0	0.0
2.3 振動			-	-	-	-	0.0	0.0
3 風害、日照障害の抑制			3.0	0.15	-	-	3.0	3.0
3.1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	3.0	3.0
3.2 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	3.0	3.0
4 光害の抑制		広告塔なし。建物外壁のガラスについて特に影響なし。	3.0	0.10	-	-	5.0	5.0
5 温熱環境低減化の改善			3.0	0.30	-	-	3.0	3.0
6 緑地システムへの負荷抑制			3.5	0.15	-	-	3.6	0.0
6.1 雨水処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-	3.0	3.0
6.2 汚水処理負荷抑制			5.0	0.33	-	-	5.0	5.0
6.3 交通負荷抑制		駐輪場、駐車場の位置、数において有効な設置。	3.0	0.33	-	-	3.0	3.0
6.4 廃棄物処理負荷			3.0	0.33	-	-	3.0	3.0
■ LR-1 用途別点検								
LR-1 用途別点検		事務所	-	-	-	-	0.00	5.0
1 建築物の動員負荷抑制		9952 nt	-	-	-	-	5.0	4.0
3 設備システムのエネルギーによる評価		4.0	-	-	-	-	4.0	4.0
3.1 空調設備		5.0	-	-	-	-	4.0	4.0
3.2 換気設備		5.0	-	-	-	-	4.0	4.0
3.3 照明設備		4.0	-	-	-	-	4.0	4.0
3.4 給排水設備		-	-	-	-	-	4.0	4.0
3.5 昇降機設備		4.0	-	-	-	-	4.0	4.0